

ヒアリング記録シート 1

お名前	上平 知子 様
活動団体等	京都ピアノとうたの音楽ひろば 代表
団体属性	任意団体・グループ／北区
ヒアリング日時・場所	平成29年10月3日（火）10時30分～12時 京都市役所会議室
ヒアリング実施者	＜市民参加推進フォーラム委員＞ 桜井 政成 委員 大鳥井 悠真 委員 ＜京都市職員＞ 山下 比佐暢

<聞き取り内容>

活動をはじめたきっかけ

- ① 以前は京都府の職員であったが、もっと市民と関わりたいと思っていた。また、東日本大震災が発生した時に、もっとできることがあるという想いが残った。この2つの想いから、退職後の2013年3月に「京都ピアノとうたの音楽ひろば」を立ち上げ、「まちづくり活動」と「避難者支援活動」を柱に活動を行っている。
- ② 活動を始めるに当たっては、行政職員としての経験が役立った。
- 例えば、地域包括センターや社会福祉協議会など、地域にどういった組織があるか分かっていたので、スムーズに活動を始めることができた。
- 地域で活動を始めるに当たっては、行政組織や地域組織などの情報が必要だと感じる。(A)

情報収集について

- ① 「市民しんぶん」については、全市版よりも、区版の方が身近な情報が多く載っているので、よく読む。

情報発信について

- ① 主な情報発信の方法
- ・参加者に毎月定期的に次回以降の開催日程と添書きを書いたお葉書をお送りする。
 - ・京都新聞市民版まちかど欄に毎月FAXで情報提供を行い掲載してもらう。
 - ・区役所、図書館、老人福祉センター等に定期的にチラシの配架依頼を行う（区役所の補助金を活用している事業）。
- ※SNSでの広報は各種ブログ、ツイッター、インスタグラム、LINEで行っているが（フェイスブックは行っていない）、広報の対象がシニア層が中心のため紙ベースでの情報提供も同時に必要であり、SNSだけでは情報が届かない傾向がある。
- ② チラシを置いてもらえる場所や、京都市の広報媒体に掲載してもらえる方法などを、知らない人が多い。(A)
- ③ 情報発信の講座を京都市が行うとすれば、チラシの作り方など初歩的な講座がよいと思う。

活動資金について

- ① 区役所の区民提案支援事業の補助金を活用している（北区役所，左京区役所，下京区役所，伏見区役所）。
- ② 区役所の補助金の原資は税金であるので，補助金の支出先の審査はある程度厳しくてもよいと思う。
- ③ 区役所の補助金は3年が限度のものが多く，1年目，2年目，3年目で支援の目的がより明確であればよいと思う。
- ④ 3年を超えると活用できる補助金が極端に少なくなる。3年目以降も，基盤がしっかりしている団体を判定して補助金を交付し，その代わり，その団体が，新しい団体をサポートするなどの仕組みを考えてはどうか。（C）
- ⑤ 自分達で資金をまかなった方がよい団体，寄付を集めた方がよい団体，補助金で支援して続けてもらった方がよい団体など，団体の性質によってうまくコーディネートしてもらえるとよいと思う。（C）

交流会について

- ① これまで，区役所が主催する「まちづくりカフェ」に参加したことがある。活動がんばっている人が多いので，「苦労しているのは自分だけでない」と思えたり，自分の広報は他と比べてうまくいっていることが確認できたり，自分の活動を冷静に見るきっかけになった。
ただし，参加者が常連の方が多く，2回目以降の参加に少しハードルを感じた。また，もっと地域組織の方や区役所職員と話ができればよいと感じた。
- ② つくりこんだ場に来られる人は限られているので，ふれあい祭りなど，より敷居の低い場で交流できる機会がもっと増えればよい。

自治会・町内会等との連携について

- ① NPOや任意団体の活動と，地域組織の活動がもっと連携できればよいが，NPOや任意団体からの発信は一個人の地域住民である面も鑑みるとしづらい部分があり、また実態として地域組織の方は既存の活動だけでも大変だと思うので，行政が連携のつなぎをしてもらえると助かる。（F）

その他の支援について

- ① 本当に地域のことを考えて活動しているが，事務手続きが得意でなく，補助金ももらえず活動基盤が弱い団体もあるように思う。
行政が補助金を交付していない団体への支援をどのように行うのか，こういった団体に対して力を入れて支援を行うのかという考え方が，もう少し明確になるとよいと思う。

ヒアリング記録シート 2

お名前	田島 慎也 様
活動団体等	桂ヴィレッジフェス実行委員会 京都中小企業家同友会 理事・事務局長
団体属性	任意団体・グループ／西京区
ヒアリング日時・場所	平成29年10月17日（火）10時～11時30分 中小企業家同友会事務所（京都府中小企業会館4階）
ヒアリング実施者	＜市民参加推進フォーラム委員＞ 桜井 政成 委員 竹内 香織 委員 ＜京都市職員＞ 山下 比佐暢

＜聞き取り内容＞

活動をはじめたきっかけ
（町内会の活動への参加） ① 現在、阪神淡路大震災の時に被害が大きかった地域に住んでいる。自分は震災の時には住んでいなかったが、地域の方々から、「震災をきっかけに住民の結束力が強まり、いろんな活動が始まった」と教えてもらった。 ② 自分に子供ができ、町内会の活動に参加し始めた。地域で顔見知りが増え、様々な人の活動で地域が成り立っていることを知った。また、地域活動に参加することで、御近所の方とのつながりが増え、楽しくなり、もっと関わりたいと思うようになった。 ③ 町内会で、当たり前のように役割を与えられることが、活動の入口として有効な場合もある。そうしたきっかけから、地域のがんばっている人の姿を見て、自分もがんばらなければと思えることがある。 ④ 地域活動のやりがいや得られるものを、活動を行っていない人にうまく伝えることが必要だと思う。 （桂ヴィレッジフェスへの参加） ⑤ <u>西京区役所で、まちづくりカフェを立ち上げる時に、当時の西京区長が、中小企業家同友会事務局に来て、参加の依頼を受けた。同友会の西京支部への参加依頼であったが、自分は西京区民だったので参加した。（B）</u> ⑥ まちづくりカフェには、地域活動を始めようとしている方がたくさんいて、そこで、桂ヴィレッジフェスをされている方と知り合った。
交流会について
① 地域のために何かしたいと思っている人は結構いるが、どう関わっていいかわからない人が多いと感じる。そういった人達の掘り起こしが重要であり、まちづくりカフェは効果的だと思う。 ② まちづくりカフェの日程は年間で予めお知らせされているので、予定が立てやすく参加しやすい。

中小企業の役割について

- ① 中小企業は、地域に支えられて経営しているので、地域に根付き、地域の役に立たなければならぬ。地域課題の解決をテーマの1つとしている企業もあり、そういった企業は、NPOと見ている方向は同じである。(E)
- ② 例えば、災害時にNPOや地域が役割を果たせなくなった時に、企業側の側面から支援できることがある。

企業と行政、NPOの連携について

- ① 以前、西京区のまちづくり区民会議の市民公募委員をしていた。区役所には産業（もしくは商工業）振興の部署がないので、事業者とのつながりをつくるためにも、各区役所のまちづくりを考える審議会委員に、地域事業者枠を設けてはどうか。(E)
- ② 行政やNPOが、企業と連携しようと思った場合、どの事業者に声を掛ければいいのか分からないことがあると思う。そういった時は、(連携の中身にもよるが) 中小企業家同友会のような団体を窓口に使ってもらえればよい。(E)
- ③ 企業は自分の弱みは分かるが、強みは気づきにくい。NPOなどと連携することで自分の強みに気づききっかけにもなる。
- ④ NPO同士の連携の場を行政がつくり、企業がつなぎ役となることができると思う。

ヒアリング記録シート 3

お名前	田中 純子様
活動団体等	特定非営利活動法人ふれあい吉祥院ネットワーク 事務長
団体属性	NPO／南区
ヒアリング日時・場所	平成29年10月23日（月）16時～17時30分 吉祥院いきいき市民活動センター
ヒアリング実施者	＜市民参加推進フォーラム委員＞ 太田 清美 委員 菅谷 幸弘 委員 ＜京都市職員＞ 山下 比佐暢

＜聞き取り内容＞

活動をはじめたきっかけ
① 元々、任意団体で吉祥院地域の活性化を行っていたが、いきいき市民活動センターの指定管理を受けることを目指し、NPO法人化された。 ② 自分は、NPOが立ち上がった時に事務局員になった。それまでは、民間企業で働いていて、次の仕事を探している時期に、当時のPTA会長に声をかけてもらった。
情報収集及び情報発信について
① 市民しんぶんイベント情報を掲載してもらったことがあり、ありがたかったが、その他の京都市の媒体にどのように情報を掲載してもらえるのか知らない。 <u>京都市の支援メニューの一覧があると助かる。それもネットだけでなく、紙媒体でもあった方がよい。(A)</u> ② また、<u>京都市の支援以外でも、そもそも、どのような広報手段があるのか教えてもらえる講座があれば参加したい。(A)</u>
資金獲得について
① 自分達の活動に使える補助金が少ない。子ども向け、高齢者向けといった、特定の方を対象とした事業に対する補助金はあるが、お祭りなど、子どももお年寄りも楽しめるような事業で使える補助金があれば助かる。 ② <u>自分達は10年活動して、やっと地域に認識してもらえるようになったので、交付期間が3年という補助金で成果を出すのは難しい活動もあると思う。(C)</u>
地域組織等との連携について
① 地域組織等とNPOや、地域組織間の交流の場がもっとあればよい。

ヒアリング記録シート 4

お名前	中岡 英樹 様
活動団体等	上高野くらしごと研究所 代表
団体属性	任意団体・グループ／左京区
ヒアリング日時・場所	平成29年10月24日（火）10時30分～12時 五右衛門カフェ
ヒアリング実施者	＜市民参加推進フォーラム委員＞ 芝原 浩美 委員 杉山 準 委員 ＜京都市職員＞ 山下 比佐暢

＜聞き取り内容＞

活動をはじめたきっかけ
① 6年ほど海外に住んでいて、日本に帰った時に、人との関係やコミュニケーションの仕方に違和感があった。人の関係性を作り直したいと思い、仲間が集まれる場所として、4年前にこの古民家を借りて活動を始めた。 ② どういう風に進めて行こうかメンバーで相談したが、活動内容は、マルシェや、一緒に農作業をしたり、ごはん食べたりといったことで、やりたいと思った人が動いて、無理なくやってきた。
情報発信について
① 情報発信は、チラシ、メーリングリスト、フェイスブックで行っている。マルシェやカフェには、もっと近所の人に来てもらいたいので、ポスティングなどもしている。
資金獲得について
① 左京区役所の区民提案型支援事業の補助金を活用していた（平成26～28年）。補助金の情報は大家さんに教えてもらった。 ② 補助金は、家賃や光熱費に充てられないものが多いが、自分達の活動でお金がかかるのはその部分なので、そこに充てられればありがたい。
地域組織等との連携について
① 自治会・町内会等とは時間をかけて良い関係を築いていきたい。
行政の支援の方向性について
① <u>自治会など場所によるつながりを重視した活動も大事であるが、自治会加入率が低くなっており、場所ではなく価値観などのつながりを重視した、ゆるやかな活動が、今後もっと重要になってくると思う。そういった活動に対する支援がもっとあってもよい。全ての活動を支援することはできないだろうから、モデル事業を選定して支援するという方法もあるかもしれない。（F）</u> ② まちづくり活動をしてきた人から、団体の運営や自治会等とのコミュニケーションの方法について、アドバイスを聴ける機会があればよい。

ヒアリング記録シート 5

お名前	中谷 慎一 様
活動団体等	元真如堂町町内会
団体属性	自治会・町内会／上京区
ヒアリング日時・場所	平成29年10月13日（金）午前10時～11時 京都市役所会議室
ヒアリング実施者	＜市民参加推進フォーラム委員＞ 川島 ゆり子 委員 津田 陽輔 委員 ＜京都市職員＞ 寺澤 昌人

＜聞き取り内容＞

活動をはじめたきっかけ
① 住んでいるコーポラティブハウスが元真如堂町に建設され10年を迎えた際、地域の人に何かお返ししたいと思い、元真如堂町町内会の方々と一緒になって、地域で講演会や防災の勉強会を企画しようということになった。そこで、「元真如堂健康福祉とまちづくりを考える会」が設立された。取組の一環として、冊子「元真如堂町暮らしの写真帳 - 地蔵盆の一日-」を作成した。地域に住んでいる写真家の協力も得て地蔵盆の一日の写真を撮影した。元真如堂の町内会の皆さんだけではなく、中立学区の町内会長さん方にも読んでもらえるようにお配りした。 時間はかかったが、地域の様々な人が関わり、写真帳を作成することは楽しく、地域のきずなや交流が深まった。
情報収集について
① 市民しんぶんやインターネットから補助金の情報を得ていて、情報収集については困っていない。 ② 京都市役所・区役所主催のイベントに参加した人に情報を発信してもらえると、より効果があると思う。
情報発信について
① 作成した写真集を上京区の他の地域でも使ってもらいたかったが、広げるのが難しかった。こうしたソフト面でアドバイスがあればありがたい。
資金獲得について
① <u>写真帳の作成には、上京区役所の区民提案型支援事業の補助金と京都府の補助金を活用した。上京区役所の職員の方に京都府の補助金を紹介してもらい、ありがたかった。（D）</u>
交流会について
① 区役所のまちづくりカフェについては、参加して楽しかった。 <u>そういった場で、行政から、「これをやりたい。だから手伝ってくださいませんか」と、どんどん発信してもらえれば、協力する市民も出てくると思う。（B）</u>

ヒアリング記録シート 6

お名前	西尾 美里 様
活動団体等	梟文庫（個人で運営）
団体属性	個人／北区
ヒアリング日時・場所	平成29年10月6日（金）13時30分～15時 梟文庫
ヒアリング実施者	＜市民参加推進フォーラム委員＞ 荒木 泰子 委員 兼松 佳宏 委員 ＜京都市職員＞ 山下 比佐暢

＜聞き取り内容＞

活動をはじめたきっかけ
① 梟文庫を開所したのは約1年半前で、運営は1人で行っている。 以前は、精神科のナースとして、障害のある方が通所するデイケアで勤務していた。そこで、医療という切り口でなく、障害のある方の居場所が地域に必要なだと感じていた。ただ、最近は自立していくことが求められがちであり、居場所というものは医療の観点からは認められにくい。様々な事情がある人同士が、触れあい学ぶことができるような出会いの場があればいいと思い、活動を始めた。まずは制度にのらない形でやってみようと思った。 ② 友人に、やりたいことをなんとなく話したら、安く借りられる場所を紹介してくれたのがきっかけ。本が好きで、「まちライブラリー」という枠組みを知り、その形からであれば始めやすいと思った。
情報収集について
① 今年度は北区役所の区民提案型支援事業（北区まちづくり提案支援事業）の補助金を活用しているが、その情報は人から聞いた。今年度は、北区役所の職員の方がメールで支援策をお知らせしてくれているので助かっている。行政の方が応援してくれると励みになる。 ② 市民活動総合センターのメールマガジンにも登録している。
情報発信について
① SNSやHPで情報発信を行っているが、顔の見える形でつながっていききたいので、今年5月に、まちライブラリーのイベントで、近くの公園で子供服の交換会などを行った。 ② 地域の人たちに活動を知ってもらいたいので、今年度、補助金を活用してパンフレットを作成する。区役所のお墨付きがあれば、学校や自治会でもパンフレットを配ってもらえるのではないかと期待している。 ③ リビング新聞に載せてもらった際は、本を寄贈したいという問合せは増えたが、利用者が大きく増えることはなかった、届けたい人達に情報を届けるのは難しいと感じている。
資金獲得について
① 会員になっていただいた方の会費や、サポーターとしての寄付で運営費をまかなっている。寄付いただいた方に対してお返しする物がないため、子供見る、料理する、勉強を教えるな

ど、何かお手伝いしますと言っている。

- ② 以前から共同募金の助成金を活用していて、今年度は、北区役所の区民提案型支援事業の補助金も併せて活用する。

補助金申請の事務は面倒な面もあるが、補助金をもらうことで区役所やいろいろな人に活動を知ってもらいきっかけになる。(D)

交流会について

- ① 自治会や地域とのつながりが課題の一つである。区役所主催のまちづくりカフェに、地域組織の方が多く来られるなら参加したい。(F)

ヒアリング記録シート 7

お名前	松野 実菜 様
活動団体等	そらたねプロジェクト 前代表
団体属性	任意団体・グループ／北区
ヒアリング日時・場所	平成29年10月25日（水）13時30分～14時45分 立命館大学
ヒアリング実施者	＜市民参加推進フォーラム委員＞ 竹内 香織 委員 吉川 忠男 委員 ＜京都市職員＞ 山下 比佐暢

<聞き取り内容>

活動をはじめたきっかけ
① 大学進学をきっかけに、福岡から京都に来た。大学生生活の4年間で、できるだけいろんなこと学びたい、大学生だけでなく大人と関わりたいと思っていた。 ② そんな時に、授業でNPOセンターの野池さん（未来まちづくり100人委員会事務局）の話を聞いて、未来まちづくり100人委員会に入った。 ③ その後、立命館大学のサービスラーニングセンターでも活動始めた。そこでのプロジェクトがうまく行かなかったこともあり、組織運営を意識し始めた。そうした時期に、先輩に誘われて、そらたねプロジェクトに参加した。
情報収集について
① <u>市民しんぶんは家に届いているが、あまり読んでいない。（B）</u> ② <u>市民活動総合センターも聞いたことはあるが、活用したことはない。（B）</u> ③ <u>立命館大学の中でボランティアフェスティバルを行っている。そういったところで、京都市の支援策を紹介してもらえるとありがたい。（B）</u>
情報発信について
① 広報の方法を教えてもらえたり、活動内容の紹介などをしてもらえると助かる。
資金獲得について
① これまで、北区役所の区民提案型支援事業補助金や、学まちコラボ事業の補助金を活用してきたが、補助金に頼りすぎるのはよくないと思っている。 ② 学生は補助金申請の事務が分からないことが多いので、手続きの詳細について、予めもっと分かればありがたい。
大学生の市民参加について
① ワークショップの運営を自分達で行なえる機会や、公務委員志望の学生にとっては京都市役所とのつながりができる機会などがあれば、学生の興味を引くと思う。

ヒアリング記録シート 8

お名前	村岡 文彦 様
活動団体等	きょうと未来の運動会実行委員会 代表 京都市未来まちづくり100人委員会 第5期委員
団体属性	任意団体・グループ／東山区
ヒアリング日時・場所	平成29年11月9日（木）10時～11時30分 東山いきいき市民活動センター
ヒアリング実施者	<市民参加推進フォーラム委員> 壬生 裕子 委員 吉川 忠男 委員 <京都市職員> 山下 比佐暢

<聞き取り内容>

活動をはじめたきっかけ
（100人委員会の委員になったきっかけ） ① 10年前にITのボランティアに関わった時に、きょうとNPOセンターの職員と知り合った。それから連絡を取っていなかったが、100人委員会の委員を募集している時に、たまたま声を掛けられて、面白そうだと思い委員になった。 （きょうと未来の運動会を始めた経緯） 未来の運動会というのは、知り合いが始めたイベント。山口芸術センターや東京などで開催されたのをフェイスブックで知り、そのことを東山いきいき市民活動センターの所長に雑談で話をしたところ、一緒にやろうということになった。 地域への貢献というより、面白いことをやりたいというのが出発点であった。
情報発信について
① イベントの周知は、チラシとフェイスブックで行い、フェイスブックで「いいね」を押してくれた人全員にダイレクトメールを送った。200人にメールを送って、来てくれたのは5人ぐらい。 参加者の7割以上は口コミでの参加。フェイスブックで「いいね」をしてくれる人と、実際に行動してくれる人は別だと実感した。親子で来てほしい場合、あまりフェイスブックは機能しないと思った。 ② 市民しんぶんの区版に載せてもらおうと思ったが、2ヵ月前が締切だったので、あきらめた。 ③ プレスリリースの仕方がわからなかったが、今回は、東山いきいき市民活動センターが新聞社に連絡を取ってくれた。
資金獲得について
① 東山いきいき市民活動センターに紹介してもらい、東山区役所の区民提案支援事業補助金を活用することとなった。申請の締め切りが5月で決定が7月ごろであり、採択されるかわからなかったもので、自腹でやる覚悟が必要であった。年度をまたいで補助金申請できればよ

い。(参考：翌年度の補助金申請を年度内に受け付けている区役所もある。)

② 区役所の補助金は、特定の目的でなくても申請できるので、使い勝手がよい。また、交通費にも支出できるのがありがたかった。(D) ただ、区役所は平日の昼しか開いていないので、勤め人が相談しに行きにくい。

③ 少額で気軽に申請できる補助金がもっとあればうれしい。

また、任意団体いえども、メンバーリストと定款を作成しなくてはならないので、勢いで始めるとちょっと面倒だった。

④ 次回は、東山区以外で開催するかもしれない。東山区では補助金をもらえたが、区が移ると一からになる可能性がある。行政区をまたがる活動について、中継ぎをしてもらえると助かる。(担当の「“みんなごと”のまちづくり推進事業」に登録してもらえれば、中継ぎやマッチングなどを行うことができるので、紹介を行った。)

交流会について

② 東山区のまちづくりカフェに参加したことがあるが、参加者の興味が多岐に渡っていて連携できる人は見つからなかった。

② 例えばドローンの好きな人同士で集まると、盛り上がって、一緒にやりましょうということになりやすい。真面目な目的だけでなく、好きなことでつながれるきっかけになる交流会があればよい。

自治会・町内会等との連携について

運動会に地元の人を誘客しようとすると、やはり自治会の協力が必要と痛感。地元に密着した活動が必要。(F)